

我輩は〇〇である…なりきりすごろく

5月に行われた日本建築学会子ども教育事業部会主催の「第9回子どものまち・いえワークショップ提案コンペ」に、伊藤研の有志で挑戦し、最優秀賞をいただきました。10月に流山市生涯学習センターにて、市内の小学生を対象にWSを実施しました。生き物になりきってまちを歩き、撮影した写真からすごろくを作成し、みんなで遊ぶという内容です。生き物になりきることで普段とは異なる視点から自分たちのまちを観察してもらうことがねらいでしたが、子どもたちの発想は私たちの想像以上に豊かで、それぞれの生き物からの視点が反映され、とても楽しいすごろくになりました。

最優秀賞を受賞しました！



WSには、コンペ参加メンバー以外の研究室メンバーや3年生の学生もボランティア参加してくれました。まず、生き物目線当てクイズによって好奇心を高めてから、まちあるきに出かけました。子どもたちは、生き物の視線や気持ちを想像して写真を撮っていました。その後、撮ってきた写真を使い、すごろくマスを作りました。



できあがったすごろくで遊ぶ子供達の活力は凄まじく、等身大のすごろくで遊ぶ姿がこのWSで目指していた風景でもあり、感慨深いものでした。最後に、集合写真と子ども一学生ペアの写真が入ったアルバムをプレゼントし、子ども達に感想を大きな模造紙に書いてもらいました。この模造紙やすごろく、活動の写真は流鉄線流山駅前に展示される予定です。参加した子ども達が、これまでよりまちの風景が豊かに見えるようになることを願っています。

■第3回 (2019/5/16)

三菱地所

小野田 龍さん(6期生)

都市開発の仕事について教えてください。

竹中工務店開発計画本部で担当した渋谷パルコ建替え計画を例にお話します。一般法規による単純建替えではなく、都市計画制度を活用することで、容積率や高さなどの規制を緩和し、自由度の高い施設計画と、事業採算性により、バリューアップを図ったプロジェクトになります。規制緩和のために公共貢献が必要なのですが、渋谷ならではの、新進クリエイターを支援するプログラムやアート・カルチャーの発信といったソフト面での取り組みについても評価してもらえたことは他に例のないことであり、苦労した点でもありました。都市開発はダイナミックな仕事である一方、行政、権利者、近隣住民など、皆が納得いくような事業となるよう配慮が必要であり、事業を進める上では繊細さも大切になります。開発・企画といった業務は長期に渡ることが多く、コンペ案件などは報われないこともあります。その分、着工まで漕ぎ着けた時の達成感は大きいです。

その後 MINTO 機構に出向されたんですよね？

MINTO 機構というのは国交省の外郭団体で、長期安定的な資金を提供することでまちづくりを支援しています。補助金ではなく、資金回収するという意味では金融機関に近く、大規模な都心開発で巨額の資金が必要とか、地方案件で十分な融資が得られないとか、民間金融機関では対応しきれない事業に MINTO がお金を出します。融資のほかに、共同事業に近い形で出資することもあります。再開発事業や公共施設整備など、安易に補助金に頼るのではなく、MINTO や金融機関などを活用しながら、自立した事業計画を立てることが大事だと思います。収益性の高い事業＝自立した事業、という考え方をもっておくことは大切で、不動産事業は後世に引き継ぐものなので、魅力ある施設計画と安定的な収支計画のバランスが必要だと思います。



■第4回 (2019/11/21)

Atago House

青木 はるひさん(2期生)

甲府に移住された経緯を教えてください。

大学を卒業して、日本生命保険相互会社に就職しました。不動産部で5年間働いた後、株式会社アスラポという当時創業4年のベンチャー企業に転職しました。不動産事業を通じて様々な社会問題を解決しようとしている会社で、ここで私は甲府ぐるめ横丁の企画と運営を任されたんです。立ち上げ後も甲府に残って仕事がしたいなと思い、また甲府で出会った人と結婚することになり、退職して甲府に残りました。今は業務委託という形でぐるめ横丁の管理をしています。

どのようにぐるめ横丁を立ち上げたのですか？

ぐるめ横丁は25の飲食店が集まって運営しているのですが、当初は5店舗のスナックが必死の努力でビルを支えている状況でした。ぐるめ横丁誕生までの流れは、テナント

出店募集の第1フェイズ(5ヵ月)と、テナントみんなでコンセプトを決める第2フェイズ(3ヵ月)に分かれています。最初は東京の南青山のベンチャーから突然やってきた若者に地元は不信感があったし、中心市街地で商売が成り立つと誰も思っていなかったのも、出店募集にも全く問



老若男女、たくさんの人で賑わうぐるめ横丁

■Kofu, Yamanashi
■17:00-2:00

い合わせがありました。そこで、軽い気持ちではできないと思い、甲府に生活の場を移して、1045人の人に会いました。あらゆる集まりに顔を出して、人に人を紹介してもらい、そんなことを繰り返して、ようやく出店者が集まったんです。コンセプトを決めるフェイズでは、みんな意見がバラバラで本当に大変でした。ただ、多数決で決めるのは避けたくて、可能な限り皆さんの意見を受け入れるように話し合いを進めました。みんなで終着点を見つけたことで、個性的な店主とお店が集合する横丁ができました。最初にハコモノをつくるのではなく、出店者と話し合って決めるプロセスが非常に重要だったと思います。

地方都市で働く魅力を教えてください。

私も大学生のときに、東京で働くという選択肢しか頭にありませんでした。どこかで地方に行くのは嫌だなと思っていたところもあったし。でも地方都市の中心市街地は空洞化して、その分不動産価値が暴落しているので、ものすごいチャンスがあるんですよね。実際、私は今地方で非常にやりがいのある楽しい仕事ができているので、意外と地方も楽しいよって皆さんに伝えたいと思います。

伊藤研で行っている研究会です！

集落研究会



高柳助教が中心に今年度から活動している勉強会です。人口減少や高齢化によって維持が困難になっている集落、伝統文化の継承等によって良好な景観が形成・維持されている伝統的な集落について、巡検・議論・文献調査等の研究活動を行ってきました。2019年は新潟県十日町市、岩手県大槌町、京都府伊根町の舟屋の巡検を行いました。今後も引き続き、国内の集落の巡検を活動的に行っていきます。

Pavement 研究会



様々な種類の色や形、大きさ、パターンの組み合わせが存在する街路のペイヴメントの写真を収集・観察し、都市空間との関連を読み解いていきます。

Civic Pride 研究会



研究室から3人の学生と2人のOGが参加しています。2019年の研究会では、久しぶりの欧州調査や読書会など活動も充実しています。

3 大学合同合宿を行いました！



宇都宮大学・都市計画研究室（大森宣暁先生、長田哲平先生）、福島大学・石川友保研究室（石川友保先生）と合同で栃木県大田原市・那須スポーツパークにて合宿を行いました。

■ 28th-30th August 2019

■ Nasu, Ōtawara-shi, Tochigi

1日目は各大学の学生達が取り組んでいる研究について発表・ディスカッションを行いました。伊藤研からは4年生（5組）、修士課程（2組）が発表しました。その後、懇親会などを通して学生・先生と交流を深めました。2日目は博士課程の発表、先生方自身の研究を交えた講義を行い、午後は黒羽体育館でレクリエーションを行いました。3日目は宇都宮大学の学生と黒磯駅周辺でまちあるきを行い、那須塩原市まちなか交流センターくるるを見学しました。交通計画やロジスティックという異なる分野の研究室との合同合宿でしたが、共有できる点も多く、貴重な経験になりました。



黒磯はカフェを中心としたまちづくりを行っています！

1-minute presentation

伊藤研究室では、国際交流の場で自分の関心について話せることを目指し、毎週1人ずつ英語で1分間のプレゼンテーションをしています。テーマは自由ですが、都市・地域・文化・建築などの視点を入れるようにしています。今年のプレゼンテーションのテーマの例を紹介します。

"English discussion is a great opportunity. I want to improve my English."

Advertisement / Calligraphy /
New Zealand / The Relations
between Stadium and City /
Attractive city / About
professional baseball /
Tokunoshima / Micro Brewery /
Music event in the city / 1968 /

What do you think of
1-minute
presentation?

Kichijoji / The attraction of Shakujii park / About
A cappella event / Xi'an / Thailand Traffic / Photogenic city
Sakura / Time management / My
home/Boardgame Café / Flamenco / Urban
street life in Hanoi / Dubai / Sneakers

"I learned that the
most important thing is
trying to speak."

"It is interesting to
know the lab members
have various
perspectives on cities."



新しい助教の高柳誠也先生を紹介します！

Q1 専門分野について教えてください。

人口減少による土地利用変化をテーマとして、GISを用いたデータ分析から集落のフィールドワークまで幅広く取り組んでいます。土木学科（景観工学）出身ですが、建築設計や震災復興の実務など、土木から建築・都市計画まで異なる立場に関わった経験が影響していると思います。

Q2 好きな都市はどこですか？

出身地の松本も含め、小さな城下町が好きです。その中でも学生時代まちづくりに関わっていた大分の竹田はとても好きなまちでした。集落では遊子水荷浦の段畑や五島列島の隠れキリシタン集落も印象的でした。海外ではハンプルクのように開発と文化が融合されている都市が好きです。

Q3 伊藤研究室の印象を教えてください。

個性的かつ一人ひとりとても素直で、何より考えるのと同時に手が動く印象です。この雰囲気は伊藤先生や長年の先輩方が築き上げてきたものなのかなと思っています。だからこそ、もっと自信をもって（根拠のない自信でもいいから）様々な挑戦をしてほしいです。

Q4 学生へメッセージをお願いします。

先行きが不透明な時代だからこそ「知的な体力」が重要だと考えています。大事なもののほど仕分けづらく、重要なもののほど答えはないものです。安易に周囲に同調せず、逃げずに考え続ける力をつけること、借り物ではない自分の言葉や寸法で表現することに意識的であってほしいです。

高柳先生への 一問一答

高柳 誠也先生

1987 長野県松本市出身
2013 長野県松本市出身
2013 東京大学大学院工学系研究科
社会基盤学専攻修了（修士）
2013-2014 有限会社乾久美子
建築設計事務所
2014-2015 大樋町役場総合政策課
2019 東京大学大学院工学系研究科
社会基盤学専攻修了（博士）



ピクニックインタビュー

Picnic interview

ピクニックインタビューでは、毎年ゲストを招き一緒に食事を楽しみながらくつろいだ雰囲気でお話を伺っています。今回は光嶋裕介さんをお招きしました。



guest
光嶋裕介さん

建築家。1979年、米ニュージャージー州生まれ。早稲田大学理工学部建築科で石山修武教授に師事。大学院修了後、独ベルリンの建築事務所に4年間勤務。2008年に帰国し光嶋裕介建築設計事務所を主宰。2010年、思想家・内田樹氏の自宅兼道場（合気道）である凱風館を設計。著書に『みんなの家。～建築家1年生の初仕事～』『幻想都市風景』がある。

■ 14th October 2019
■ Hibiya Park

Q1 ドローイングを描くのと建築を設計するのでは、どのような違いや関係があるのですか？

建築家として「設計すること」と同じくらい「描くこと」も大切にしていますが、その違いは外的な要因です。他者とともに建築を設計するのに対して、描くという行為は孤独なものです。音楽に例えると、作曲が良くなければどんなすごい演奏者をつかっても良くない音楽になってしまうし、逆に良い譜面を書いてもプレイヤーが貧乏ければ良い音楽をつくれません。そのバランスを保つのが建築家だと思っています。建築家は作曲家であり指揮者でもある。絵を描いている時は自分の内側へとダイブするので作曲家的だし、現場に出てみると指揮者的に職人に関わりながらしか建築はつくれないんです。でも指揮者としてこんな建築をつくりたいんだっていう思いは作曲家的に自分の中にダイブすることで見つかる。だからドローイングはすごく大事な行為なんです。

DESIGN

凱風館 in2011
合気道道場 + 住宅

用途
合気道道場 + 住宅
コンセプト
多様な空間がそれぞれに複雑に関係し合うような「みんなの家」としての建築。



photo by Takeshi Yamagishi

DRAWING



幻想都市風景
2019

新しい自分を発見するための行為として、あったかかもしれない「幻想都市風景」をモチーフにドローイングを描いているそうです。

Q2 建築家という垣根を超えて様々な活躍をされていますが、活動の源は何ですか？

クライアントの建築に対する見方を拡張したいというモチベーションがあります。これも音楽に例えると、音楽好きの人が必ずしもプレイする必要はないということかもしれません。つまり、建築もそうで、自分の人生を左右する住宅を依頼してくれているのに、建築のことがわからないという理由ですごく他人行儀なのは、もったいないと思います。建築の教育を受けていなかったり、建築の設計はわからないかもしれないけど、どんな人でも日々空間と関わっているのに、建築がすごい狭いものに捉えられてしまっているのが残念に思うことが多々あります。建築ほど広いものはないのに。海外では地元の人たちが自分の言葉で自分たちの町の建築について愛着を持って語っています。建築家じゃないんだけど、建築を愛している。教養が深いと言ってしまうまでもありますが、そうあるべきだよね。だから常に建築を開いていきたいって思うんです。そのきっかけは成熟している文化をヨーロッパで経験したからかもしれません。



Q3 海遊館のアサインに布が使われていたり、ドローイングに和紙が使われていたと思いますが、マテリアルへのこだわりについて教えてください。

例えば今この丸椅子をテーブルとして使っているのは我々が地面に座っているからであって、これは本来は椅子として想定されているもの。でも、この上に小学生が立てばステージにだってなるよね。そういういろんな可能性にあふれている中で、極限まで還元したら、結局空間を空間たらしめているものは素材であると思うんです。だから建築を「素材をどう構成するか」という視点を一番大事に考えたいと思っています。

絵を描く時に和紙をつくるのは、「あれ、紙ってつくれるんじゃない？」ってことを漫画家の井上雄彦さんに教えてもらったから。井上さんと初

めて対談をした3年後に、「ガウディー井上雄彦展というのをやることになりました」と井上さんから連絡をいただいて、僕はガウディーと井上さんをつなげる文章を書くことになりました。ガウディーの建築を見て、井上さんは自分でつくった和紙にサクラダファミリアを描きたいと言ったのが強く印象に残っています。井上さんがガウディーから学んだことは、ガウディーがタイル1つ1つまで職人と話し合ってたっていうつくる情熱です。それ以来僕もドローイングのための和紙を自分で漉くようになりました。井上さんから紙に出会えたし、素材に対するこだわりも結局は人とのご縁なんですよ。

Q4 ベルリンで4年間お仕事をされたあと、日本で仕事をしようと決められたのはなぜですか。

アメリカで生まれ育ったときはブライアンっていう名前を父から与えられていたから、英語のとき自分は違う人格になるってことを自覚していました。でもベルリンで4年間過ごすと、いわゆるドイツ人っていう人はどこにもいないって気づきました。話してみると、親父がギリシャ人で、みたいな。「あ、俺は光嶋裕介でいいんだ、日本人が建築家としてベルリンで働くってということには何の問題もないし、そもそもみんな違っていいんだ」って気づいたんです。

色に例えると、僕はヨーロッパが青で日本が赤って思っていて、青に憧れがあったからこそ、

青にダイブした。そしたら自分の輪郭からどんどん紫になっていったけど、完全に青になることはなく、中心にある変わらないものはやっぱり赤だったんです。独立して建築家として名前を掲げて仕事をするっていう覚悟と責任は、自分自身の中に根付く赤い文化の中で戦いたいと思ったから、4年目で帰国を決めました。この修行時代に得たものとして、多様性を認めるってことを僕はドローイングでも、建築でも、いつも大事にしています。だから、幻想都市風景にはいろいろな物を描いています。排除に基づいたひとつの統一感っていうのはすごくイージーだけど、いろんな雑多なものを同居させることの方が複雑で難しい、これが美しい。そういう思いを掲げて日本に帰国しました。

当日はあいにくの雨！
急遽あずまやでの
ピクニックインタビュー
となりました。



Q5 光嶋さんが学生に伝えたいことは何ですか。

建築ってそもそも評価が曖昧だからAさんは良いって言ってもBさんは良くないっていうことがしばしばあります。1+1=2みたいな模範回答がないから、答え合わせができない気持ち悪さがある。それは建築家になってもずっと「わからない」わけで、自分だけの物差しをつくって、自分だけの答え合わせをし続けるしかないんです。変わることを恐れずに、自らをアップデートしていく。変わり続けることが、変わらない強度になる。

だから学生たちに言いたいのは、「自分の価値観、自分の物差しをしっかりとつくりなさい」ってこと。物差しをつくる方法は人それぞれだけど、僕は建築バカだったので、建築の本読んで、映画を観て、とにかく旅に出てスケッチをすることが何より幸せだった。思えば何かに「没頭すること」で物差しをつくっていたように思います。今の学生を見て思うのは、もっと振れ幅が大きいと人は感動しない。自分の物差しが大きいとそれだけの振れ幅でしか物事を思考できないというのは、もったいない。だから、建築であれ、恋愛であれ、今の自分を更新してくれるようなことん没頭できることに邁進してほしい。万人に共通に流れる限られた時間を、未来の自分のために大切に使うことですね。さあ、旅に出よう。

学会 & ワークショップに参加しました！



研究室
メンバーも発表
しました！

建築学の進歩発達をはかる！

日本建築学会大会

Architectural Institute of Japan

金沢工業大学で開催された日本建築学会大会（北陸）に参加しました。様々な大学の学生や先生、企業の研究者の発表もありました。自分のセッションは研究分野が近くどれも興味深い内容ばかりで、他の発表を聞く中で内容や発表の方法等の課題を見つける事ができた貴重な経験でした。

■3rd-6th September 2019

■Kanazawa ■M1



M1で金沢のまち歩きを行いました！

75 カ国からの参加者が集まる！

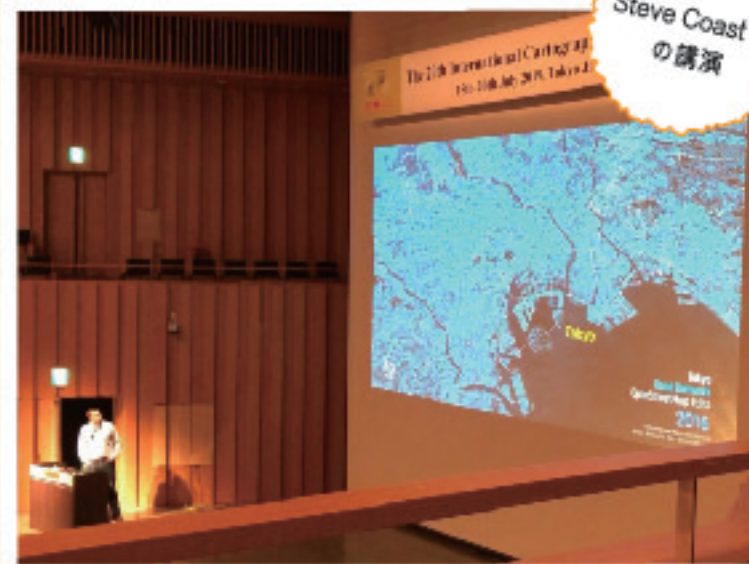
国際地図学会議

International Cartographic Conference 2019

日本科学未来館で開催された第29回国際地図学会議では、参加者が世界約75カ国から集まり、基調講演や発表会が行われました。東京での開催は39年ぶりです。ボランティアでの仕事の他、英語のセッションやOpen Street Map 創始者のSteve Coast氏の講演を聴講できたのは、貴重な経験となりました。

■15th-20th July 2019

■Tokyo ■常泉(M1) 中谷(M1)



Steve Coast 氏の講演

ここに注目！

一般社団法人ソトノバ主催！

Park(ing)day2019 渋谷



渋谷宮益坂で道路に歩行者が滞在できる空間を作る取り組みに参加しました。交通量の多い渋谷に歩行者のための空間を作ることができました。■前田(B4)

風景デザイン研究会主催！

九州デザインシャレット 2019



長崎唐人屋敷を対象に広場の提案をしました。異分野同士の交流は刺激になりました。

■常泉(M1) ■福嶋(M2)

アートアンドアーキテクトフェスタ主催！

Architectural Workshop

Izumo 2019



出雲大社の境内にフォリーを制作しました。デザインの発案から材料の発注も自分たちで行いました。1/1で建築を建てる貴重な経験となりました。■齋藤(M1)

建築トークイン上越実行委員会主催！

建築トークイン上越 2019



新潟県上越市高田を舞台に「public relations」をテーマに関東の建築を学ぶ学生、先生と討論を行いました。■高梨(M1)

論文

<2018 年度修士論文>

街路ネットワーク上の商店街立地とその空間 -墨田区を対象として- 鈴木俊
 鉄道沿線の人口分変化と商業機能の充足 -東京都市圏の近郊鉄道を対象に- 川越拓志

<2018 年度卒業論文 (通年)>

都心商業地区における個人商店の持続と建替に関する研究 田邊真弓 常泉佑太 中谷柊介
 -青山通り周辺地区を対象として- (優秀卒業論文賞)

大学生の散策行動における経路・目的地の選択 櫻井優祐 藤田有琳
 東京都内のハラル飲食店の立地とムスリム対応に関する研究 伊藤ちひろ 菊嶋勇介
 客船ターミナルにおける眺望景観と滞留行動に関する研究 鈴木晴瑛 林卓弥

<2019 年度卒業論文 (半期)>

回遊行動からみた表参道の機能的役割に関する研究 阿部萌子 岩田采子
 青山地区における空間変容と場所認識に関する研究 須藤里佳 塚本寧々
 -児童期の遊びを中心とした行動の記憶から- (優秀卒業論文賞)
 中心市街地におけるお気に入りの場所と地域愛着の関係 石川幸陸 上野亜耶
 -水戸市中心市街地を対象として-

卒業設計・修士設計

小さな生活景

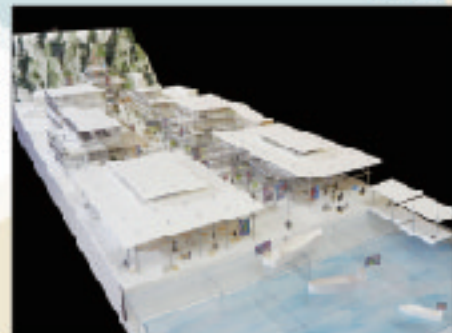
- 木造密集地域の更新手法 -

菅野碧

海祭礼讃

- 漁業と祭りを中心とするまちの建築 -

高梨淳



・2018 年東京理科大学大学院
 建築学専攻 修士設計最優秀賞

・2018 年度東京理科大学建築学科
 卒業設計優秀賞
 ・JIA 千葉支部第 31 回千葉県建築
 学生賞優秀賞 2 位
 ・第 6 回東京理科大学合同卒業設
 計展最優秀賞

<2018 年度修士設計>

・noisects- 共感覚から導かれる色・形・空間 - 中野拓朗

<2018 年度卒業設計>

・カットアップを用いた店舗併用住宅 一谷和希
 ・汐見台集落 - 斜面地に対する新しい建築のふるまい方と
 人の暮らし方 - 小山朝子
 ・ナラタージュ建築 - 地域資源を残した建築群の更新手法 -
 齋藤匠
 ・品川から始まる地方再生計画 松下耕太
 ・五感で感じる園舎 吉田奈央可

对外発表

<査読付論文>

伊藤香織 (2019), シビックプライドの源泉としての都市環境及び諸要素: 富山市中心市街地と富山地域を事例として,
 都市計画論文集 54(3), pp.615-622.

<査読付プロシーディングス>

高柳誠也 (2019), 国土数値情報土地利用細分メッシュデータを用いた人口動態と土地利用変化の関係-水田型地域と
 畑地型地域の違いに着目して-, 日本建築学会学術講演梗概集, 農村計画 (オーガナイズドセッション), pp.5-8

<研究発表>

高柳誠也 (2019), 中山間地域における人口減少と生産的土地利用変化の関係, CSIS DAYS 2019 空間情報科学研究セ
 ンターシンポジウム, p.36.
 一谷和希, 高梨淳, 松下耕太, 伊藤香織, Andrew Burgess (2019), 中心市街地活性化基本計画における事業集積に関
 する研究, CSIS DAYS 2019 空間情報科学研究センターシンポジウム, p.44.
 林卓弥・鈴木晴瑛・伊藤香織・Andrew Burgess (2019), 客船ターミナルにおける海の眺望度と滞留行動の関係, 日本建
 築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.193-194.
 小山朝子・齋藤匠・伊藤香織・Andrew Burgess (2019), ストリートパフォーマーにより見出される公共空間の特性, 日本
 建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.263-264.
 菊嶋勇介・伊藤香織・Andrew Burgess (2019), 東京都内のハラル飲食店の立地とムスリム対応環境に関する研究,
 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.581-582.
 高梨淳・一谷和希・松下耕太・伊藤香織・Andrew Burgess (2019), 心市街地活性化基本計画における事業の集積に関
 する研究, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.949-950.
 中谷柊介・常泉佑太・田邊真弓・伊藤香織・Andrew Burgess (2019), 青山通り周辺地区における個人商店の持続と建
 替に関する研究: その1 個人商店の建替状況, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.981-982.
 常泉佑太・田邊真弓・中谷柊介・伊藤香織・Andrew Burgess (2019), 青山通り周辺地区における個人商店の持続と建
 替に関する研究: その2 個人商店と地域コミュニティの関係性, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画,
 pp.983-984.
 Kaori Ito, Yusuke Sakurai, Yuri Fujita, Andrew Burgess (2019), A note on the Relationship between Spatial
 Recognition and Behavior while Walking in the City, The 29th International Cartographic Conference, Tokyo,
 Japan.

Trips to Cities

研究室のメンバーが2019年に訪れた都市・地域の一部とそのオススメポイントを紹介します。



エストニア タリン

バルト三国の1つ、エストニア。中世の面影を残す首都タリンの旧市街は、世界遺産にも登録されています。■勝又 (B4)



ギリシャ サントリーニ島

エーゲ海に浮かぶ火山島。斜面に沿って立ち並ぶ住居と狭い路地で形成される街並みは圧巻。■阿部 (B4)



台湾 台北

旧タバコ工場をアート創造地区にリノベーション。台湾アーティストのかわいい雑貨に出会えるかも。■岩田 (B4)



富山県 富山市

LRTを導入するなどコンパクトシティの実現を目指していて、世界先進モデル都市にも選ばれています。■堀野 (M2)



イタリア マルタ島

首都バレッタの建物は、敵が攻めてきた時に室内からでもすぐ分かるように、窓が張り出しています。■須藤 (B4)



モロッコ マラケシュ

旧市街の中心地にある広場。大道芸人や観光客で賑わいますが、かつては公開処刑なども行われていたのだとか。■盛田 (M2)



タイ バンコク

かつて安宿が並んでいたカオサン通りは、現在バックパッカーの聖地として人気を集めています。■上野 (B4)



三重県 伊勢市

神聖な伊勢神宮へ続く参道には、江戸時代のおかげ参りの様子が再現されており、大勢の人で賑わっています。■中谷 (M1)